

## 令和4年度 第5回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年1月30日（月）午前9時30分から正午まで
- 2 出席者 玉木健治委員（地域コーディネーター） 鍋田正明委員（中村町自治会長）  
大橋典子委員（PTA会長）  
望月雄司委員（静岡市大里生涯学習センター長）  
枝 賢一委員（小糸製作所人事部企画課）  
校長、副校長、事務長、小学部主事、中学部主事、地域支援部長
- 欠席者 本田道子委員（ありんこの里管理者）、  
望月映延委員（JA静岡中央会広報部長）
- 3 場 所 会議室

### 4 校長挨拶

- ・寒い毎日が続くが、今週は暦の上では節分や立春。春の訪れが近づいている。
- ・社会では事件や事故が多い。ニュースになっている連続強盗事件では日本人が絡み、海外から殺人を指示するなど、凶悪な犯罪が増えている。
- ・コロナは5月8日に5類に変更される。しかし、死者数が多いなど根本的な課題は解決していない。特別支援学校は体の弱い子が通っている。マスク無しの方向性だが、学校はどうしていくか。文部科学省や県教委からどのような指示があるか心配をしている。子どもたちの安全をしっかりと守っていききたい。
- ・本校は次年度、子どもの数が減り、学級数も減る。代わりに通級指導教室の対象者が増加する。
- ・今、聴覚特別支援学校の在り方を検討している。他県では視覚と聴覚の学校が一緒になっている。静岡は3校あるが、全国的には特別。多くの県は1つだけ。大きな埼玉県も2校だけである。県教委の方で検討が進んでいくだろう。
- ・4月に子どもの権利条約に基づいて「子ども基本法」が施行される。子供たちの幸せをみんなで守っていく社会。子どもたちが参画していく社会を目指す方向性が示される。
- ・子どもの虐待など問題が多い。今後、学校の在り方などを見直しながら大きく変化していかなければならないだろう。
- ・本日、副校長から指示があるが、県内で教職員の不祥事が多発し、不祥事根絶研修を行うよう教育長から指示があり、本校では2回取り組んだ。教職員がざっくばらんにお互いに話をする形の研修を行った。
- ・本日は、よろしくお願ひしたい。

### 5 報告と協議について

#### (1) 令和4年度不祥事根絶取組目標及び報告（校内コンプライアンス委員会）

【資料4ページから6ページまで】

副校長 不祥事根絶のための研修を年に2回時間を設定し、取り組んだ。1回目は年度当初だったため、異動してきたばかりの教職員もよりリラックスして感じていることを話せるようにテーマや話す場での座り方を工夫した。2回目は各自が広い視野を持ち、明るい未来を描けるようなテーマを設定した。

校 長 模造紙に個々で書き込み、次のグループが前のグループで出た話題を模造紙で知る

ことで、より多くの人の考えに触れられるようにした。学校内のことから離れて自分自身の生活についての考えや今の思いを語る良い機会になったと思う。

大 橋 子供にも同じような取り組みができると良いと思った。学年に在籍している人数が1人だけなど、本校は児童生徒数が少ないので先生方も交えて色々な人の考えを知る機会になると思う。

望月雄 色々な人の考えに触れることがコンプライアンス遵守につながるのではないかと感じた。

枝 新鮮な取り組みだと思う。参加された先生方にお聞きしたいが、時間が足りないということは無かったのか。

栗 田 世代間ギャップを感じた。ファシリテーターが若い先生方が話しやすい雰囲気を作ってくれたが、時間はこの場では短かった、ただ、この研修が終わった後に別の時間で改めてお互いに話すことにつながったので良かった。

玉 木 この研修後に何か変わったことはあるのか。

副校長 普段話す機会が少ない職員同士が話すきっかけになったのではないと思う。

玉 木 自分が勤めていたときには職員旅行や職員スポーツ大会等、交流の場があったと思うが、今は無くなっているのだからこういった研修はとても良いと思う。

鍋 田 先生方の業務は大変で日々努力されている中だと思うので、先生同士での情報共有の体制が取れたら素晴らしいと思う。

## (2) 令和4年度学校経営報告（自己評価）について【資料7ページから9ページまで】

副校長 教職員、子供、保護者にアンケートを取ってまとめた報告書である。14項目中、A評価が11項目、B評価が2項目、その他評価中のものがある。皆様にはB評価となった2項目について御意見をいただきたい。1つ目の「ICT活用による効果的な学びの充実と検証」についてだが、子供には県からタブレットが配付され、文部科学省からデジタル教科書の使用推進の方向性が出されている。教室にもモニターが設置され、環境的には整いつつあるが、なかなか活用までは進んでいないのが現状である。何か御意見等を戴きたい。

赤 堀 小学部は入力難しい児童もいるが、漢字のアプリ等の導入で活用し始めたところである。まだまだタブレットを使って発表をすること等に苦手意識をもっている児童や教員もいる。ただ、教師用デジタル教科書については教材の関連動画も入っており、授業準備の簡略化もできて効果的だと思っている。

小 林 教員はインターネット等を使った資料提示はできると思うが、双方向での意見の伝え合いにもICT活用が進んでいくと良いと思う。

赤 堀 普通校がかなり進んでいる状況で、本校でも同じように双方向での意見交換ができるように今、準備を進めているところである。

枝 ICTの可能性は色々あるが、方向性はまだ定まっていない。情報の一元化をしているところで、その段階で投資も必要な状況で検討中である。

副校長 将来、ICTのどのような力が必要とされるのかを考えながら教育活動を進めていかななくてはならないと思っている。2つ目のB評価だった「専門性を生かした乳幼児教育相談の充実」について、外部機関との連携を進め、校内では乳幼児教育相談マネージャーによる指導を受けているところだが、何か御意見はあるか。

枝 マネージャーの相談相手は誰を対象としているのか。

副校長 教職員、保護者、子どもへの支援全てである。

校 長 外部とは、まだまだ連携の方法を模索している段階である。

小 林 B評価として考えられることは、STとの連携回数が1回少なくなってしまったこ

とと、担当者の自己評価が低かったことが考えられる。今後は事業が終わることを考えると今の取組をまとめ、きちんと残していくことを考えていかななくてはならないと思っている。

大 橋 本校につながっていない保護者と接する機会があったが、その方の話だと「(本校では) 思いを分かってもらえなかった。」とおっしゃっていた。また、保護者自身が自分で動いていかないと得られない情報があるが、もっと病院等との連携を進めてここに来れば情報が得られるようになったら良いと思う。

副校長 今、貴重な情報を大橋様から戴いたと思っている。保護者の思いをきちんと受け止めながら教育相談を進めていけるようにしたい。

### (3) 令和5年度学校経営計画(案)について【資料10 ページから13 ページまで】

校 長 令和3年度から4年度には大きく経営計画を変えたため、令和5年度は大きな変更は無い。人権意識や多様化を認める姿勢をもつことについては子供たちに対してはもちろんのこと、教職員も多様な考えをもっていることを忘れずに進めていきたい。防災・防犯については自分の身は自分で守れる子供に育てていくこと、キャリア教育の視点をもってつながりのある教育課程を進めていくことを引き続き取り組んでいく。また、学校運営協議会でずっと話題に挙げている教職員の働き方については県教育委員会から指導も受けたため、各学部・分掌等でできるかぎり個々が抱えている業務を把握して少しでも早く帰宅できるようにしていきたい。グランドデザインについては、目指す子供像を地域支援部も含めて4つの部を載せるようにした。

副校長 経営書の中で4点ゴシック表記になっているところがある。それぞれの学部で具体的に取組を進めていくことになるが、どのように考えているのか。「自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実」について、小学部ではどうか。

赤 堀 防災・防犯については学校で避難訓練が年5回、防犯訓練が年2回計画されているが、小学部の児童が自分で考えて行動できるように育てるにはそれだけでは足りないと考えている。9月に起きた豪雨で断水になった児童から家庭での様子を聞いたりニュース等を取り上げたりして、その都度考えてきた。またジュニア防災士講座も受けている。来年度は児童数も減るため、みんなで集まって防災・防犯について子どもたち同士で話し合いをする時間を設定しようと考えている。

副校長 2つ目のゴシックである「子供が対話的、協働的に学ぶ授業実践」について、幼稚部ではどうか。

吉 尾 子供たちの気持ちが動く授業づくりをし、そこから確かな日本語の獲得をしていくことを重点に頑張っていきたい。本校の子供の土台となる大事な時期なので、大事に育てたい。

副校長 「キャリア教育の視点での幼小中学部の指導のつながりと進路指導の充実」について、中学部ではどう考えているのか。

本 間 生徒会の活動をより充実させていきたいと考えている。学部内に留まらず、幼稚部小学部への呼び掛けや地域への発信を進めていく。また、進路については今年度から高校見学を入れた。高等部見学と合わせて自己の進路に対する考えを深めていけるように指導していきたい。

副校長 「特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化」について、地域支援部ではどう取り組んでいくのか。

小 林 関連機関との情報共有では、お互いの立場の違いを頭に入れ、想像力を働かせながら進めていきたい。サポート対象の年齢層が幅広いため、地域支援部の個々だけで

は対応ができないと考えている。校内教職員とも連携していきたい。

副校長 来年度の経営について、委員の皆様から御意見や御感想を伺いたい。

玉 木 各学部素晴らしい説明で、実現できると良いと感じた。オのキャリア教育の設定が80%になっているが何か意味があるのか。また、教員の専門性は高めていかななくてはならないと思う。保護者の中には最初にこの学校に来た時の気持ちをいまだに覚えていると話す方もいる。保護者や子どもにとって何が必要とされているのかを考えながら専門性の向上を目指してほしい。

枝 気になっているが、教職員の働き方について、今の状態で帰宅を早めるのは難しいのではないかと思う。他の特別支援学校との違いがあるのかどうか。単に早く帰ることを目指すのでは教育の質を落とすことにつながるのではないか。幼稚部や地域支援部など、他校との元々の違いはあると思うが、それ以外の違いを知ることが大事なのではないか。

副校長 学校の大きさの違いはあるが、学校として求められることは同じである。その中で個々の働き方を考えていく必要があると思っている。

望月雄 限られた人数の中でこれだけの目標に取り組んでいくことは難しいと思うが、長期的な視点で継続していくことが大事だと思う。

大 橋 キャリアのことについては、同じ年代の普通校に通っている子との交流が欲しい。先生方の大変さが話の中でよく分かったが、今後、学校の思いと保護者の思いが合っていくと良いと思った。

鍋 田 先生の大変さや責任の重さを感じた。先生同士で気を抜きながら話ができる時間があると良いのではないかと思った。

#### (4) 令和5年度学校運営協議会（案）について【資料14ページ】

副校長 ここから令和5年度学校運営協議会についての話をしたい。司会を玉木様にお願いする。目的は、資料14ページに記載されたとおりである。委員については引き続き、皆様をお願いしたいと考えている。年間計画については学校と、地域、家庭がつながっていくためにどうしていけば良いかを協議する場としたい。皆様からは内容を含めて御意見等を伺いたい。

校 長 学校と「つなぐ」「つながる」というイメージで矢印が双方向に向くようにしていきたい。具体的にはどのような方法や活動でつながるのかを考えたい。最終的にはキャリアの視点につながるとしている。今、考えられるのは教職員のビジネスマナーの研修を企業の研修と一緒に、子供たちが自分たちの作品展示を地域にお願いしに行く、地域や保護者に来校してもらって畑の耕し方を学ぶ等である。

玉 木 具現化につながるような委員としての活動が提案されたが、委員の方からの御意見はあるか。

鍋 田 学校からこちらに出向いてもらえれば、虫取りやさつま芋等の畑での収穫、ごみの資源問題についてなどの話ができると思う。奉仕活動については地域でも個々での捉え方が違い、積極的な方とそうでない方と二極化しているため、早くから子供たちに関心をもってもらえると良いと思っている。

玉 木 安全指導について、地域の様子はどうか。

鍋 田 ここのところ事故が多いと感じている。子供たちと一緒に地域を歩きながら話をしたいけると良い。

玉 木 家庭との連携については学校としてはどのようなイメージをもっているのか。

校 長 今回の社会の働き方もあり、昔とは家庭力が違って来たと思っている。保護者学習会への参加を呼び掛ける等の取組が学校ではできると考えている。

大 橋 先日の学習会も中学部では自分だけ、小学部の保護者も一人だけだった。学習会の後にベルマークの点数処理で他のお母さんと交流を持つ機会となったが、やはり働いている方だと参加すること自体が難しい。研修会の内容や日を考えていただけると保護者も積極的に参加するのではないかと。外部とのつながりももちろん大事だが、現状だと校内の保護者同士のつながりも薄い。通級生との保護者の交流等がもてると良い。

望月雄 会議で教職員の方に利用してもらおうなど、つながりができるのは良いことだと思っている。作品展示をやってもらえると、地区に学校があること自体は知っている程度の方にも知ってもらえる良い機会になるのではないかと。今までは大里中だけだったが、今年2月から初めて小学校（中田小、大里西小）も含めた作品展示会を開く。また、「大里かるた」を作っているがそれも活用していけると子供たちにとってより地域が身近になるのではないかと。

玉 木 教職員のスキルアップにもつながるような取組をしていきたい話が学校からあったが、企業としてはどうか。

枝 コロナ禍で今は外部の方は御遠慮いただいているが、一番は働いている場を見学していただければ良いのではないかと。小糸に限らずJAなど、いろいろな業種を見ていくことが大事なのではないかと。

玉 木 各学部でこのテーマだと自分の学部でできると考えていることを具体的に話してもらえるとイメージができるが、何かあるか。

吉 尾 幼稚部は、散歩の中でおたまじゃくしや虫を採ったり地域の方を触れ合ったりできると有難い。

赤 堀 小学部は、子ども110番の家に来年度4月に子どもを連れて挨拶に行かせてほしい。保護者との連携については、12月のPTAの清掃活動の日に中学部の保護者に小学部の保護者が中学部についての話を聞いていたが、きちんと時間をとって保護者同士が話をできると良いと思ってる。また、社会科見学で自動車の関連工場について学んでいるが小糸製作所はまさにぴったりなので、何かお力を頂けると有難い。

本 間 中学部は、生徒自身が地域に出向き、危険箇所等を調べる等の活動の中で地域の方々とつながることができればと思う。

小 林 防災については、浜松の自宅の方だと地区の訓練参加率は100%だが、聴覚障害のある児童生徒の中にはなかなか訓練に参加していない家庭もあるようだ。地域に聴覚障害をもった人がいることを知ってもらえる大事な機会だと思うので、今後勧められると良いと感じた。また、これまでの卒業生は製造業に就職する生徒が多かったが、これからは色々な業種に広がっていくことが予想される。企業の方から今の子供たちに求めていることを今後も伺えると良いと思う。

校 長 授業のある中でどんなことができるのかを考えていきたい。ICT活用は、子供たちだけでなく、教職員もICTを使つての問題配信や採点が始まっている。ただ、その中でも試験は記述式をとっていて、教育が大きく変わりつつある。病院や行政は法で動くが、学校（教職員）はまだ感情で動いているところがある。色々な変化の中で来年度も皆様と夢が語れるような会となると良いと考えている。

## 6 事務連絡など

副校長 関係者評価については御提出できる方にはお願いしたい。次年度、スムーズに話が始まるよう、本日の話についてまとめた板書写真は共有するようにしたい。